

豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成

I 主題設定の理由

近年、経済的な格差が広がってきているが、相変わらず物質的な豊かさの方に多くの人々の目が向けられ、心の豊かさが置き去りにされている。また、人間関係は年々希薄になってきている。それらと併せ、家庭や地域、社会の教育力は十分であるとはいえず、子どもたちに自立の遅れ、倫理観の低下、人間関係の脆弱さが見受けられる。

我々は、それらの課題を看過するわけにはいかない。そこで、それらの問題を解決するためにも、道徳や特別活動と同様に、各教科、総合的な学習においても、子どもたちの心を豊かに育てることを念頭において、教育課程を編成していかねばならないと考える。

ここで我々が考える「心を豊かに育てる」とは、主体的に学ぶことができるようにしたり、学ぶことに自信を持たせたり、友だちと学ぶことのよさに気づかせたり、自分や友だちのよさをとらえることができるようにさせたり、学ぶことをおもしろいと思わせたりすることなどである。

子どもたちの心を豊かに育てるために、仲間の実践に学びながら、常に子どもたちの実態、地域の実態等を考慮し工夫を施し教育課程を編成していきたい。また、子どもたちの学びが豊かなものとなるようにするために、子どもたちの学びの様子に柔軟に対応できるよう教育課程にゆとりを持たせたい。

そこで、本部会のテーマを「豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成」として、研究実践に取り組んでいく。

II 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 実践報告による研究
- (2) 研究授業における課題への取り組みについての検証
- (3) 総合的な学習における評価の研究

2 研究の経過

- | | | | |
|-------|------------------------|------|----|
| 5月10日 | 研究組織、研究の方向性・具体的方法の検討 | | |
| 5月24日 | 研究組織、研究の方向性・具体的方法の決定 | | |
| | 「戦争から平和への歩みを見直そう」の実践報告 | 日下部小 | 山縣 |
| 6月14日 | 第55次全国教研と第56次県教研基調提案報告 | | |
| | 「総合的な学習（くすのきタイム）」の実践報告 | 日川小 | 新海 |
| 6月28日 | 「いろいろな人の生活を知ろう」の実践報告 | 井尻小 | 酒井 |

		「Welcome ! ようこそ 日本へ」の実践報告	井尻小	本宮
8月	7日	夏季学習会 総合的な学習の課題についての研究		
9月	6日	統一授業研 研究授業	日下部小	山縣
		「日下部情報を作って学び合おう」		
9月	27日	「日下部情報を作って学び合おう」の実践報告	日下部小	山縣
11月	29日	「ゴータイム (総合的な学習)」の4年間の実践報告	塩山南小	古屋
1月	31日	「元気モリモリ大作戦」の実践報告	岩手小	小野
2月	14日	祝小の総合的な学習の年間計画に学ぶ	祝小	大澤

III 成果と課題

1 成果

研究協議をしていく中で、子ども自身が自分を見つめ、自分を好きになるような取り組みもバランスよく組み込み、「自分もみんなも好き」になるようなカリキュラムを作っていきたいと思った。そのためには、子どもたちの自己評価能力を育てることに努める必要があると感じた。

また、6年間を通じて子どもたちの学びの記録を行い、子どもたちの学びの足跡や結果を残し、子どもたちの学ぶ力や心の成長の跡を教師と子どもたちが共有する必要があると思えた。そのことは、前記の子どもの自尊感情や自己肯定感を育むことに資すると考える。

統一授業研の授業研究では、3年生の総合的な学習の授業参観や研究会から、「子どもたちの聴き合う関係づくり」の様子を学ぶことができた。また、子どもたちと地域との関わり方についても考え方を深められた。

そのように、総合的な学習を中心としたカリキュラムづくりについて、実践に基づいて、育てたい子ども像や指導の方法などを話し合うことによって、お互いに考えが深められ、研究主題に迫ることができた。

以下のことも、研究の成果としてあげられた。

各校の様子や児童生徒の様子を知ることができた。

各校の実践や取り組みを知り、これからの実践の参考となった。

教師と子どもが共同して総合的な学習をつくりあげることの価値を感じた。

2 課題

総合的な学習の中に、人との関わりを更に取り入れていく必要とその難しさを感じた。

少人数のため、発言や質問がしやすく研究の内容が深まったことは利点であったが、部会員が多ければ、更に多くのことを学び合え、研究に広がりがあったと思う。ぜひ次年度は、多くの先生方に本部会に参加していただきたい。

(部長 小野紀男)